IGAS2007

●レポート②〈プリプレス〉●

PDFプリントエンジン軸に展開

さらに高速化（毎時50版）するCTP

▽CTP・プルーフ

プリプレスは、現在CTP出力段階におけるケミカルレス・プロセスレスプレートが注目を集めている。

富士フイルムグラフィックシステムズ（以下FFGS）からは自動現像機を使用せず薬品も使用しない環境対応サーマル無処理CTPプレート「ECO&FREE SYSTEM ETーS」を紹介。

また、技術発表としてケミカルフリーフォトポリマープレートPROーVを、バイオレットレーザー搭載BIサイズ・デジタルプレートセッターLuxel V-8HDとともに出品した。

レコーダーでは時間50版のT-9800HX、プルーフでは色校正の新たなデファクトスタンダードとなりつつあるPRIMOJETの新製品も紹介された。

コダックグラフィックコミュニケーションズはMagnus800 Quantum（四六全対応）を展示・実演。また、12800dpiの特殊高精細美術印刷・セキュリティ印刷向けのKodak Trendsetter UHRを紹介した。

また、プレートでは新開発Kodak Sword Jサーマルプレートと新現像システム（Kodak P-1310Xプレートプロセッサー、処理薬品）により環境対応性、経済性を高めたKodak Sword Eco Solutionが提案された。

ハイデルベルグ・ジャパンはサーマルタイプSupra setterを紹介。

日本アグファ・ゲバルトでは、環境対応ケミカルレスCTPプレート「Azura」を中心にケミカルレスプレート出力対応CTP「Avalon LF」、「Acento II」などCTPシステムを紹介。

コニカミノルタグラフィックイメージングは、校正刷りのデジタル化を促進するデジタル色校正機「デジタルコンセンサスプレミアム」、高速カラーカンプ用途の「ページマスタープロ5500」などを展示した。

三菱製紙ではシルバーディジプレート印刷適正技術をベースにした機上現像不要の刷版「サーマルディジプレート」、塗布現像方式の省液プロセサー搭載「フレディア エコ」、RoHS指令準拠という環境対応を達成し高精細出力を実現したSDP―810IIIRなど紹介。

大日本スクリーン製造はクラス最高速の時間当たり50版を実現したGLV露光ヘッド搭載PlateRite8800ZXを出品。

キヤノンマーケティングジャパンは、プルーフから面付け確認のプルーフなど幅広い用途をもつ大判インクジェットプリンタ「imagePROGRAF」シリーズ、カラープルーフ出力からオンデマンド印刷まで対応し、ハイブリッドワークフローのPODワークフローをサポートする「imagePRESS」を展示。

東レは新開発の水なしケミカルレスCTP版INNOVAなどを展示した。

gmgカラーテクノロジーズはカラープルーフ4・5など各種製品を一斉バージョンアップ。

きもとはProfileMaker5を紹介した。

エプソンでは、大判インクジェットプリンタ「MAXART」シリーズの新製品を展示。

デジタルプルーフ用の高画質モニターとして、ナナオの「EIZO ColorEdge CG Series」、サムスンの「SyncMaster XL20」などが展示された。

▽ワークフロー

ワークフローではCIP4／JDF対応によるMIS対応、PDFを直接出力可能なアドビPDFプリントエンジンを使用したワークフロー確立が焦点となった。生産工程などの現場においてIT化も進んでいる。

FFGSでは、新ワークフローXMF（アドビPDFプリントエンジン対応）を紹介。XMFではハイブリットワークフロー、PDF／JDFワークフロー、データベース「ACTIVO Manager」との連携によるRGBワークフローを可能にしたクロスメディアワークフローが紹介された。

また、3Dプルーフ・面付けビューア・網点ビューアによるプリプレス工程の自動化と「PRIMOJET」＋「i―COLOR QC」によるカラーマネジメントが提案された。

ハイデルベルグ・ジャパンはCIP4／JDFを主体とした「プリネクストシリーズ」を出展し、製版と印刷の連動の最適なプリセットデータによる色あわせ・前準備時間の短縮や、PDFプリントエンジンを提案。また、業界初となるセントラルJDFサーバーによる印刷工場のムダとボトルネックを解消するソリューションを紹介。

コダックグラフィックコミュニケーションズは、ワークフローをシームレスに繋ぎ生産性の向上と効率化を実現する「Kodak Unified Workflow」ソリューションを提案。中核となるPrinergy最新バージョン4・0（アドビPDFプリントエンジン搭載）からソリューションを構成する各ソフトウエアを使い、業務、カラー、データそれぞれの一元化と、ウェブ・トゥ・プリントを提案した。

三菱製紙では、面付けソフトFACILIS Ver4.5 Supremoや多機能RIPのSDP-RIP Ver7.1、管理ソフトSDP-RIPManager Ver3.3に、新たに面付け工程自動化ソフト「SDP―RIP IM Engine」を加え、これらを統合するソリューション「DIALIBRE」が発表された。

日本アグファ・ゲバルトでは、アドビPDFプリントエンジンと従来のCPSIを搭載するハイブリッドレンダー設計の次世代デジタルワークフロー「アポジーX4・0」を展示した。

コニカミノルタは、質の高いRGB（CMYK）変換をはじめ、さまざまな画像処理のハンドリングを自動化するRGBワークフローサーバ「Imagehandler Pro」を紹介。

また、ネオストリームプロにJDFを活用したMISとの連携で企画制作からプリプレス、印刷、発送といった印刷工程と、受発注、経営情報などのビジネス管理の両面からの工程管理ソリューションを提案した。

大日本スクリーンは、JDF／CIP4に対応し、PDFやPDF／X―4のダイレクト処理が可能なワークフローシステムTrueflow SE（PDFプリントエンジン搭載）を紹介。

VPJは、Webブラウザを使い業務データを管理し、顧客はいつでも発注処理が可能となり、作業側は依頼されたジョブの一貫管理体制を構築できる「Pressense iWay」、クロスメディア環境を支援する「XINET WebNative」、校正プロセスを大幅に削減する「DiALOGUE」を紹介した。

また、サカタインクスは、アートワークシステムズ社のPDF1・5／JDFをベースとしたプリプレスワークフローソリューション「Gate Keeper」を紹介。PDFデータを編集できる「NEO」のプレゼンも行われた。

ローヤル企画と遊文舎は印刷業務支援ソフト「ぷぷり」に新たに売上管理機能と販売・会計ソフト「弥生販売」への接続キットを加え、ブースにて紹介。

▽組版

富士フイルムシンプルプロダクツからはIndesignとデータベース双方向連携を実現したOrbit、参考出品としてFormMagic用テンプレートEasy設計ツールFormMagicDesignerを紹介。

また、キヤノンシステムソリューションズは高機能ページレイアウトソフトシステムEdianWing、オールインワン日本語DTPソフトEDICOLORの最新バージョンを出展した。

フォントでは、モリサワは、全フォントをPC1台につき5500円で一年間使える「MORISAWA PASSPORT」と、今秋発売予定となるフォント製品が参考出展され、モトヤはオープンタイプフォントなどを紹介、リョービからは「リョービタイプコレクション」が紹介された。